

宿根カスミソウの夏秋期の収量を上げる栽培法

福島県農業総合センター 会津地域研究所

部門名 花きーカスミソウー育苗、施肥法、その他

担当者 大竹真紀・鈴木美枝・芳賀紀之

I 新技術の解説

1 要旨

宿根カスミソウの夏秋期出荷において、花持ち性に優れた品種への切り替えに対応するため、摘心や施肥管理等により採花本数を確保する方法について明らかにした。

(1)摘心方法は、従来の苗1回(仮植時1回摘心)では高温期に芽数が減少するが、ダブル(仮植と定植後の2回摘心)または床1回(定植後1回摘心)とすることで採花本数を確保でき、上位規格品の割合も高まる(写真1 図1)。

採花期は床1回とダブルは遅くなることから、需要期である9月からの出荷に適している(図2)。

(2)定植ほ場の施肥量を減らしても採花本数は大差ないが、80cm規格の割合を確保するためには基肥の窒素施用量を10kg/10aとし、追肥はなくてもよい(表1)。

(3)高温期の仮植時摘心では、育苗用土の窒素濃度を500mg/Lに高めると芽数が増える(表2)。

2 期待される効果

(1)宿根カスミソウの夏秋期において、需要に沿った品種を質量ともに安定して生産できる。

(2)ほ場の過剰な施肥を抑えることができる。

3 適用範囲

宿根カスミソウの夏秋期出荷における主力品種「アルタイル系」「マリーベール」「ベールスター」生産者

4 普及上の留意点

(1)夏秋期出荷作型では、高温期にあたる定植から生育中期の水管理に留意する。

(2)摘心位置が低すぎると、芽数が少なくなったり枯死したりする場合がある。

(3)育苗用土の窒素濃度を高める場合は、窒素の溶出期間が40日程度の育苗用緩効性肥料を用いる。また、生育が旺盛になるためかん水・換気などに注意する。

Ⅱ 具体的データ等

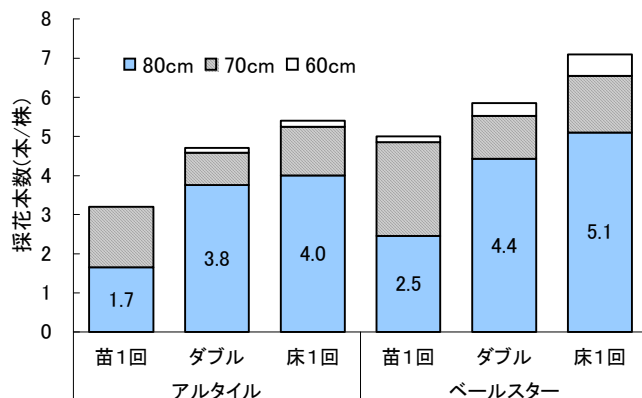
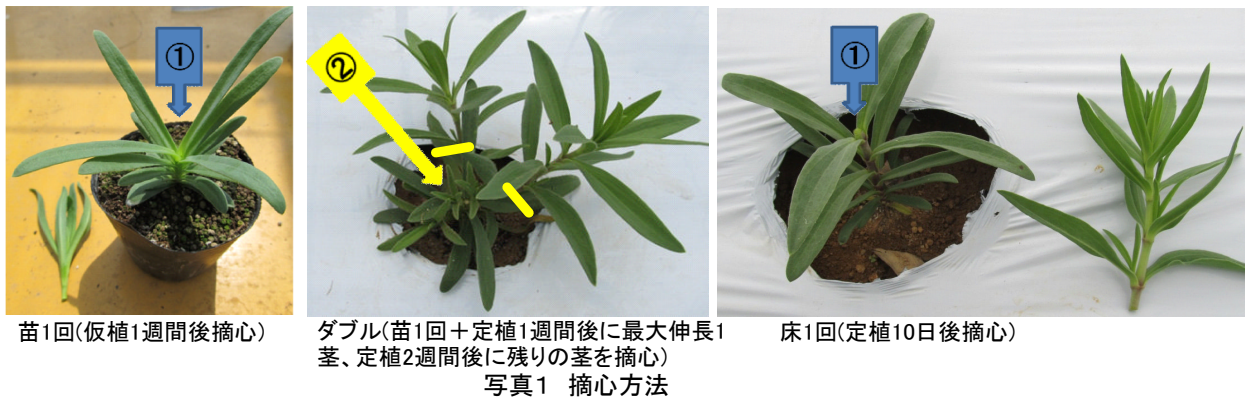


図1 摘心方法と規格別採花本数(平成23、24年)

表1 施肥量と採花本数(平成23、24年)

基肥N成分量 (kg/10a)	追肥	採花本数 (本/株)	規格別割合(%)		
			80cm	70cm	60cm
5	なし	5.7	58	38	4
5	あり	6.7	69	28	3
10	なし	6.1	87	11	2
10	あり	6.3	75	20	4

品種:アルタイル、床1回摘心、追肥N量1.2kg/10a

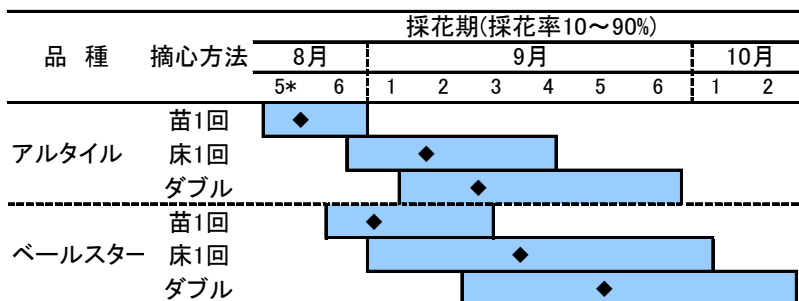


図2 摘心方法と採花期(平成24年)

昭和村矢ノ原 6/19仮植、7/3定植。*: 半月、◆: 採花率が50%に達した日

表2 育苗用土の窒素濃度と芽数(平成24年)

品 種	育苗用土の 窒素濃度	芽数 (本/株)
ベールスター	1000mg/L	4.5
	750mg/L	4.2
	500mg/L	4.4
	280mg/L	3.6
マリーベール	1000mg/L	3.2
	750mg/L	3.2
	500mg/L	3.6
	280mg/L	3.0

7/3仮植、7/11摘心、7/23調査

Ⅲ その他

1 執筆者

大竹真紀

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成23年度～24年度

(2) 研究課題名 会津地域の特色を活かした野菜・花きの高品質安定生産技術の確立 宿根カスミソウの秋切り安定栽培技術の確立

3 主な参考文献・資料

(1) 平成23年度～24年度センター試験成績概要

具体的研究成果名

福島県農業総合センター 〇〇〇〇〇部〇〇〇〇〇科

部門名 〇〇-〇〇-〇〇、〇〇、〇〇

担当者 〇〇〇〇・〇〇〇〇・〇〇〇〇・〇〇〇〇

I 新技術の解説

1 要旨

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)

2 期待される効果

- (1)
- (2)
- (3)

3 適用範囲

4 普及上の留意点

- (1)
- (2)
- (3)

Ⅱ 具体的データ等

Ⅲ その他

1 執筆者

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成〇〇年度～〇〇年度
- (2) 研究課題名 〇〇〇〇〇〇〇〇

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成〇〇年度～〇〇年度センター試験成績概要
- (2)